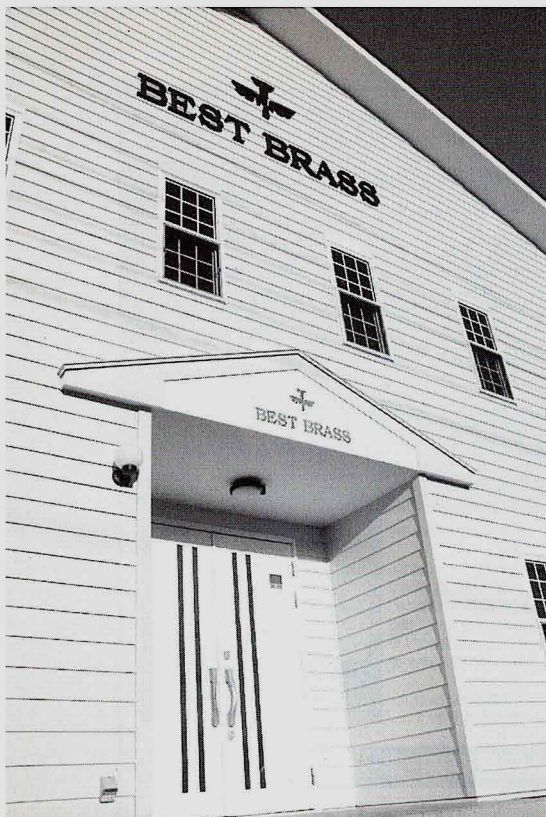




話をうかがった、ベストブラス代表取締役社長 濱永晋二さん。



トランペットやミュートなどは、工房で手作りされている。



e-Sax
¥49,875(税込)
サクスをABS製のケース内で隠らすことで大きな消音効果を得られ、なおかつ、ヘッドフォンを通して自分の音が聴くこともできる。
(国内総発売元＝(株)全音楽譜出版社)



e-Brass ¥24,150(税込)
通常のミュート同様、金管楽器のベルにセットして消音し、音程が正確でイヤフォンでのフィードバックも可能。



ウォームアップ ¥9,975(トランペット用/税込)
大幅な消音効果を持ちながら、ピッチや吹奏感の自然なウォームアップ用ミュート。各金管楽器用がそろそろ。楽器のベルに入ってしまうスグレモノ!!



マウスピース・ブランド研究

第1回 取材＆文＝今泉晃一

BEST BRASS

トランペットをはじめとして、楽器本体やアクセサリなど、アイデアあふれる管楽器関連製品を送り出している“BEST BRASS”。そのオリジナル・マウスピースは、どんなコンセプトで作られているのだろうか。



ビギナーからプロまで、すべての演奏者が言うことを理解できる

ベストブラスを主宰する濱永晋二さんは中学校の吹奏楽部でトランペットに触れ、大学ではトランペットを専攻、プロになることを目指していた。大学時代に、なんとピッコロトランペットを自作。そこで楽器作りの楽しさを知ったと言う。卒業後はヤマハに入社し、トランペットからテューバまで、あらゆる金管楽器の設計を18年間担当、その間に全ての金管楽器マウスピースの設計にも携わり、いちから設計図を起し、それまでのカップカッターからNC旋盤による加工法に一新した。

95年には大ヒット商品となるサイレントブラスを開発。ヤマハ時代にはこのサイレントブラスをはじめとして、20件近くの特許を取得した。

「とにかく、新しいことが好きなんです」と語る濱永さんは99年にヤマハを退職、その3ヵ月後にベストブラスを立ち上げた。

最初に手がけたのがなんと“e-Sax”(国内総発売元＝(株)全音楽譜出版社)。結局完成したのは7年後だったが、その過程でe-Brassが生まれたと濱永さんは言う。どちらも楽器の音を消音し、ヘッドフォンを通して自分の音が聴ける画期的技術だ。

「電子モジュールは完成していたのですが、“e-Sax”の原点である消音を実現するのが難しかった。同じ時期にトランペット用ミュート(ワウワウ、ストレートなど)を開発、そこで小さくて音程の良いミュートを作

ることに成功しました。これがe-Brassの原型です。これと“e-Sax”用電子モジュールを組み合わせたものがe-Brassです。さらにミュートの開発・研究を重ね、ベルの中に入ってしまうコンパクトミュートを発表しました。それが、“ウォームアップ”(いわゆるブラクティス・ミュート)です」。

基本的な理論はわかっている、製品作りはカット・アンド・トライだったという。偶然良い音が出たその瞬間を見逃さずに、「どうしてそれが良いのか」をきちんと解析し、理論づけすることで、また先に進めるのだそうだ。こういうふうに一瞬を捉える耳というのは、トランペットの演奏を学び、プロの演奏者になりたいと思っていたことも関係しているのかもしれない。「だからこそ、ビギナーからプロまで、すべての演奏者が言うことを理解できるのです」との濱永さんの言葉には説得力がある。

一方の“e-Sax”は途中で開発に行き詰まり、数年間眠っていたのだが、あるとき、ケースの内側に張る素材(ある種のフェルト)と出会って、その後は1年くらいで完成した。

「サクスを吹いた時の反射波によって音が干渉し、吹奏感が変わること気づき、それが解消できたことで、完成しました」。



真似が嫌いが基本姿勢

「物真似をしないこと」が、ベストブラスの基本姿勢である。

オリジナルのトランペット“アイオリア”の新しいバルブシステムも、濱永さん自身が考案したもの。「BEST BRASSならではのトランペットを作ろう」「将来必要とされるトランペットはどんな音が求められ、それにはどんな構造が必要なんだろう」と考えた末に完成したものだった。

「最終的に出てくる音のイメージは、いつでも頭の中にあります。そしてそのイメージに到達するためには何が必要かということでも悩むのです。楽器に関しては長年の経験から、図面を書けばどんな音がするかはいわかりませんが、楽器の心臓部であるバルブに関して理想を追求したのが“アイオリア”でした。

一方、“アルテミス”(国内総発売元＝(株)全音楽譜出版社)は“アイオリア”と従来からある楽器の中間です。“アイオリア”はいわばF-1マシンのような存在ですが、誰にでも乗りこなせるものではありませんよね。“アルテミス”はもう少し一般的な高級スポーツカーのような存在だと思っています」。

新製品であるトランペット用“アルテミス・マウスピース”(国内総発売元＝(株)全音楽譜出版社)も同じような考え方だそう。もちろん“アルテミス”トランペットにベストマッチのように作ってはいるが、濱永さんが理想と考える巨大な“パワーピース”に比べて、もう少し一般的な楽器にも合うように設計された製品。

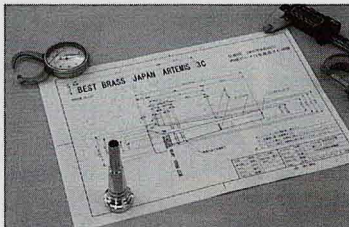
「マウスピースに関しても、求める音の方向性を想定して、ラインナップしています。マウスピースのリムの形状は、メーカーによって様々だし、同じメーカー



AIOLIA ¥1,050,000~1,207,500(税込)
剛性が高くエネルギーのロスが少ないという、濱永氏による新開発のバルブシステムを採用したトランペット。



ARTEMIS ¥787,500~892,500(税込)
AIOLIAの目指すベクトルを継承しつつ、より吹きやすくという狙いで開発されたモデル。
(国内総発売元=(株)全音楽譜出版社)



ベストブラスのマウスピースには、詳細な設計図が存在する。



このように、既存のマウスピースの型を取り、細かく測定し、音との関係を研究したという。

でも異なる形状のものが混在しているのが現状ですが、ベストブラスでは、私がベストだと思えるリム形状で統一しています。唇に当てたときの安定感を重視して、ちょっと厚めなのが特徴ですね。

シリーズ展開としては、トランペットに関してはやはりバックが世界の共通言語ですので、そこからスムーズに移行できるようにしてありますし、品番も対応させています。

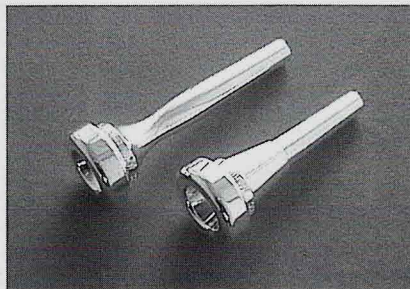
トランペット用は、パワーピースを筆頭に、重いマウスピースですが、ホルン用やトロンボーン用は逆に軽く作っています。楽器によって求める音のイメージが違うということですね。私はトランペットならしっかりとした堂々とした音を出したいので、マウスピースも重くするという考え方です。ただし、初心者にはパワーピースよりも、まずアルテミス・マウスピースをお勧めします」。

一方で、国内の一流プレイヤーの名を冠した“シグナチャー・マウスピース”は、どういった経緯で生まれたのだろうか。

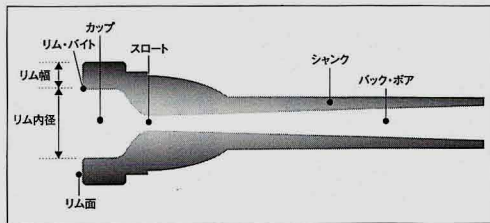
「シグナチャー・マウスピース」は、日本を代表するプレイヤーが愛用するマウスピースを、その演奏家に憧れ、目指したいと思う人々に知ってほしいという願いから作りしました。そのためにトランペット、ホルン、トロンボーン一流プレイヤー、しかも様々なタイプのプレイヤーを16人選んでいます。“シグナチャー・マウスピース”は、彼らの理想を現実とした製品なので、そこには私の意見は一切入っていません。通常のベストブラスのマウスピースとはまったく別のものです。そ



POWERPIECE ¥12,600(税込)
極めてヘヴィな肉厚カップを採用し、スムーズかつパワフルな吹奏感を得られるトランペット用マウスピース。様々なサイズがそろって、リム形状が共通なので使い分けも容易。



シグナチャー マウスピース ¥12,600(トランペット用/税込)
様々なプレイヤーの理想とするマウスピースを製品化したシリーズ。写真はエリック・ミヤシロ・モデルで、上がトランペット、下がフルーゲル用。



マウスピース各部の名称

して“シグナチャー・マウスピース”は、一流の奏者が使うものですから、ビギナーにはお勧めしません。でもスタンダードなマウスピースを使いつつ、憧れの奏者の愛用するマウスピースを知っておくことは、将来のために価値があることだと思っています」。



マウスピースこそが楽器だ！

「ベストブラスのマウスピースは、協力工場に私がデータを送って、NCで加工します。そこに人の手は一切入りません。すべてコンピューターで制御することで、設計図のデータから直接加工するのです。真鍮を材料とし、銀メッキや金メッキで仕上げ、磨きは手作業で行ないます。磨きは外側とリムのみで、カップの内側は磨きません。これは加工精度を出すためです。一般にはピカピカに磨かれている方が精度が高いように感じられるかもしれませんが、実際は逆です。磨こうとするとミクロン単位での精度が落ちてくるのです」と濱永さんは語る。

マウスピースにそこまでの精度を求める理由は、これまで多くのマウスピースを調べ、吹いたときの印象とマウスピースの構造との対応を理解していった結果、意外な事実が浮かび上がってきたからだという。

「まず、マウスピースの図面というものは、従来ほとんど存在しません。外観からもよくわからないことが多いです。そこで実在するマウスピースの型を取り、細かく測定して音との関連を調べていった結果、バックボアの重要性に気づきました。バックボ



ARTEMIS MOUTHPIECE ¥16,800(税込)
重量級ながら2本のスリットを刻むことでパワーピースよりも吹きやすいトランペット用マウスピース。金メッキ仕上げ。
(国内総発売元=(株)全音楽譜出版社)



トロンボーン マウスピース ¥18,900(税込)
リムにウェイトバランスを集め、全体に軽く作ったマウスピース。トロンボーン用も4人のプレイヤーによるシグナチャー・モデルがある。

BEST BRASS濱永氏が教える マウスピースの選び方

まず、各メーカーから発表されている数字は、測定する場所や測定方法によって変わってきますので、絶対的なものではありません。でも、カップの内径やスロート径などをあくまで参考値として覚えておいて、自分(や自分の楽器)にだいたいどのくらいのものが合うのかを知っておくことで、選択の幅をある程度限定でき、選びやすくなります。

実際に試奏するときには、マウスピースを実際に口に当て、吹いてみたときの第一印象が大切です。だいたい2秒あればわかりますよ。長時間吹いていると、かえってわからなくなる場合が多いです。ただし、自分がどんな音を求めるのかわかっていることが前提です。

それでいくつか迷ったら、今度は逆にバテるまで吹いて、最後まで鳴るものを選ぶのをお勧めします。これなら、例えば本番でどんな状態になったときでも鳴ってくれますから。楽器屋さんで何時間も吹くのは難しいかもしれませんが、ある程度吹いてから楽器屋さんに入って試奏してみるのも手ですね。

極端な話、最もスタンダードなタイプ、例えばトランペットなら3Cを使い、そのまま一生使い続けるというのもアリだと思います。それに合わせて体が作られていきますから。

アの形状というのは、拡大してみると非常に細かな湾曲があって、それが各周波数に影響し、音を決めています。ベストブラスはその研究成果を盛り込み、細かなデータに基づいて設計図を起こし、製作しているのです」。

さらに、「カップの形状によって倍音の音程も変化する」「カップ形状とボアの形状が対応して音程を決める」など、目からうろこがボロボロと落ちる話を聞かせてくれた。

「カップとリムは奏者との相性があります。しかし、スロートから先、バックボアは楽器との相性に関わってくるのです。ここを混同しないでほしいですね。極端なことを言う、マウスピースで作られた音響特性を、楽器が增幅しているだけという研究結果も出ています。実は、マウスピースこそが楽器なのです！」。